

男女混合ディンギー種目 470 級、岡田奎樹／吉岡美帆組が銀メダル獲得

メダルセレモニーで銀メダルを授与された岡田奎樹選手（左）と吉岡美帆選手

©JSAF/JUNICHI HIRAI（無断転用禁止）

レース 12 日目。男女混合ディンギー種目 470 級のメダルレースが行われ、岡田奎樹／吉岡美帆組が暫定 3 位から逆転で銀メダルを獲得しました。

昨日延期になった 470 級のメダルレース。暫定首位は 24 ポイントのオーストリア、2 位は 31 ポイントのスペイン、岡田／吉岡組は 35 ポイントで暫定 3 位、4 位は 39 ポイントのスウェーデンという状況ですが、メダルレースは得点が 2 倍になるため、上位 4 艇は誰にも金メダル獲得のチャンスがありました。

スタート 5 分前から果敢に仕掛けたのが暫定 2 位のスペインです。良いスタートを切らせないようにと、暫定 1 位のオーストリアを徹底的にマークします。2 艇の攻防をよそに、岡田／吉岡組はピンエンド（スタートラインの一番風下側）からフレッシュウインドを掴んでスタートしました。

オーストリアとスペインはレース海面の右側を、岡田／吉岡組は左側の海面を選択します。スウェーデンは最初、左側を選択していましたが、早めにタック（方向

転回)し、スペインやオーストリアと同じ海面へと向かいました。ライバルたちが右海面を選択する中、岡田／吉岡組はそのまま左海面を伸ばす選択をしました。

日本は上マークに向かう途中で暫定 1 位に躍り出ますが、レースはまだまだ序盤です。下マークを回ると他艇との位置関係から、日本とスウェーデンは右海面を、スペインとオーストリアは左海面を選択。オーストリアが徐々に追い上げをみせ、岡田／吉岡艇が先行するものの、総合得点ではオーストリアが逆転に成功します。

レースはそのまま終盤へ。スウェーデンが日本のすぐ後ろにピタリと付いて順位を暫定 3 位に上げる一方、スペインは大きく遅れを取りメダル圏内から脱落します。このレース、地元フランスが意地を見せトップフィニッシュ。日本は着順 3 番、スウェーデンが 4 番、オーストリアが 7 番、スペインは 9 番でした。その結果、38 ポイントのオーストリアが首位となり金メダルを獲得。日本は 41 ポイントで銀メダルを、スウェーデンは 47 ポイントで銅メダルを手に入れました。

日本は 2004 年のアテネオリンピック男子 470 級、関一人／轟賢二組の銅メダル以来 20 年ぶりとなる 3 個目のメダルを獲得しました。銀メダル獲得は 1996 年のアトランタオリンピック女子 470 級、重由美子／木下アリーシア組に次いで 2 個目です。

7 月 28 日から始まったパリ 2024 オリンピック。日本代表にとっては最終日の今日、銀メダルを手にし、有終の美を飾りました。

最終成績

<https://paris2024.sailing.org/racing/results-centre/>



序盤でトップを走る岡田／吉岡組 ©JSAF/JUNICHI HIRAI（無断転用禁止）

[選手コメント]

470 級スキッパー・岡田奎樹選手

「大会初日は自分の目を信じて、有利だと思うコースを選択して成績が良く、2 日目も強風でしたが自分のコースを引いて首位をキープしました。しかしそれ以降は順位を考えてしまい、相手とのポイントも計算しながらレースをするという意識で、スタート後にファーストシフトをとったら、マークする相手に合わせていくというやり方をやったんですが、それが大失敗しちゃって。

オリンピックの 4 日間通して、自分のレース(自分が良いと思ったコースを選択するレース)をしないと成績が出せないというのが分かったので、メダルレースは自分のしたいレースをする、風をちゃんと見極めてレースをするということにしました。

マークする相手と違うコースを引くのがいいかどうかは、コーチとのミーティングで僕はそういうプラン(自分のレースをする)がいいと言い、吉岡さんは違うプランでしたが、チームにとって一番自信があるのは何かというところを判断してやりました。それで負けたんだったら、そもそもそういうオリンピックであって、自分の目(風を読む力)も本当は良くなかったのかもしれないという話になりますし、今回のオリンピックで 8 レースしてきた中で、自分が選んだコースは確実に当たっているんで、やっぱり自分を信じるべきだと思いました。

序盤で左海面を選択したのは、今日は左から風が入って、それから 20 度ぐらい振れて、ある程度ここで固定するだろうと思いますが、風が入りかけの時に左に振ったということは、風は左から入ってくる確率が非常に高いので、その方向にブロー(強い風)が最初に入るのではないかと思います。見た目にも風が強く見えましたから左を選びました。

オーストリアが途中 10 番で、自分たちが 1 位になったこと分かりましたが、今のオーストリアだったら、そこから 2 つぐらい順位を上げる実力はあるだろうし、スペインのジョルディは 9 番になっていたんで、マークするのはスペインではなくスウェーデンのアントンだと思いました。そうすれば、最低でもブロンズにできるなあと思っており、結果、シルバーを手にすることができました。

セーリング競技は選手生命が長いほうですが、でも 4 年に一度って、選手生命から考えても、吉岡さんのように身長が高くて、気合いがある選手とはそう簡単には巡り会えないと思うし、一人乗りではなくペア競技なので、ペアとの相性なども含めればそうそうないことで、そのチャンスを逃さずメダルを獲ったといのは、すごいことなんじゃないかと思います」

470 級クルー・吉岡美帆選手

「この大会で絶対に結果を出したいと思っていて、全力を尽くして頑張りました。最初に狙っていた金は取れなかったんですが、でも実力は十分に出せて、実力通りの成績は出せたと思います。

私がミーティングで出したプランは、銀を狙いにいって銅をはずすよりは、確実に 3 位までに入りたいと。銀を決して諦めたわけではありませんでしたが、どうしてもメダルをほしかったので、私たちが先行していたらスウェーデンをおさえに行くみたいな、そういう案を出しました。

男子ペアから女子ペアになったことで、もっとアグレッシブにいきたいのに…というもどかしさが奎樹にはあったと思います。私は特別にヨットのセンスがあるわけではないと思うので、そんな私を引っ張って、信じ続けてくれて、ありがとうございます。東京大会後に（続けるか）悩んだ時期もありましたが、本当に続けてきて良かったなと思います」

JSAF オリンピック強化委員会・宮本貴文委員長コメント

「まずは銀メダルを獲得された混合ディンギー種目の岡田奎樹、吉岡美帆ペアとコーチの土居一斗さん、また選手所属企業であるトヨタ自動車東日本株式会社、株式会社ベネッセホールディングスの皆様にお祝いと御礼を申し上げます。また、陰ながらサポートを頂いたスタッフの皆様を始め、強化に携わって頂いた全ての皆様に御礼を申し上げます。TEAM JAPAN 一丸となって獲得した銀メダルでした。

目標としていた金メダルにはわずかに届きませんでしたが、20 年振りにメダルを獲得できたことに大きな安堵と嬉しさを感じておりますと共に、オリンピック強化委員会の使命として、今回の結果を一過性のものとせず、次回、次々回大会での更なる飛躍に繋げていくことをテーマとして、今後益々精進をして参ります。

改めまして皆様のご支援・ご声援に御礼を申し上げます。引き続きよろしくお願い致します」

本件に関するお問い合わせ先

日本セーリング連盟 広報委員会 kohou@jsaf.or.jp

現地（西朝子）sailingnishi@gmail.com

+81-90-1042-9262（なるべく WhatsApp 等のアプリからおかけください）

写真に関するお問い合わせは上記までご連絡ください

JSAF 公式 [ウェブサイト](#) [Facebook](#) [X\(旧 Twitter\)](#) [Instagram](#)

[特設サイト](#) [代表 Instagram](#)